

魚ギョラボ研×カフェ GCOE・KINDAI



第5回 「マグロ養殖でぼろもうけ!？」

開催レポート

近畿大学グローバル COE プログラム
第5回
 ギョラボ
魚研×カフェ
 コーヒーを飲みながら科学を語ろう!

マグロ養殖でぼろもうけ!?

日本人が大好きなマグロの刺身。最近では、天然マグロに代わって養殖マグロの刺身が食卓に並ぶことも。マグロの漁獲規制が新聞やテレビでたびたび報道されるなか、大企業がマグロ養殖に次々と進出。果たしてマグロ養殖に商機はあるのか!? そんなマグロにまつわるお金の話を、コーヒーを飲みながら皆様と楽しくお話ししたいと思います。皆様のご参加をお待ちしています!

日 時：2009年12月12日(土) 15:00～17:00
 会 場：奈良町あしびの郷(14:30から受付開始)
 参加費：無料(ケーキセット付)、定 員：20名

下記の電話・メールにて12月7日(月)までにお申し込みください





〈お申し込み〉
 近畿大学グローバル COE プログラム
 「クママグロ等の養殖科学の国際教育研究拠点」
 魚研(ギョラボ)×カフェ実行委員会
 電話：0739-42-4800(白浜、種苗センター内)
 Eメール：sci-cafe@nara.kindai.ac.jp
 ホームページ：http://scicafe.client.jp/index.htm
 定員20名ですので、お早めをお願いいたします。

第5回 魚研（ギョラボ）×カフェ「マグロ養殖でぼろもうけ!？」プログラム詳細

日時：2009年12月12日（土） 15:00-17:00

会場：奈良町 あしびの郷

14:30- 受付開始（横田）

15:00-15:05 挨拶（原田）

15:05-15:40 話題提供

① マグロ養殖ビジネスってどんなもの？（原田）

どんなマグロがどこでどのような方法で養殖されているのかなど、マグロ養殖ビジネスの基本的な情報をお話します。

② マグロ養殖はこれからもうかる？（有路）

マグロ資源の減少に伴い、国際的な漁獲規制が強まるなかで、マグロ養殖はこれから本当にもうかるのかを検証し、ビジネスとしてのマグロ養殖の今後の行方をお話します。

15:40-15:55 休憩

15:55-16:20 テーブル討論

16:20-16:55 総合討論

16:55-17:00 閉会挨拶

来場者数：23名（事前申し込み：21名，当日参加：2名）

スタッフ：12名（敬称略）

養殖・人工種苗グループ：松本，西田

環境グループ：安田，シュレイヤー，谷口，エミリア，大西

利用・安全グループ：ビモル，田中，横田，モク

流通・リスク分析グループ：原田

代表者のカフェレポート

<原田幸子 流通・リスク分析グループ 博士研究員>

① マグロ養殖ビジネスってどんなもの？

2009年12月12日に本年度最後となる第5回魚研（ギョラボ）×カフェが開催されました。前回、前々回はあしびの郷（奈良市）の蔵座敷での開催でしたが、今回はサロンをさせていただき皆様とゆったりとお話することができました。リピーターの方々に加えて初めて参加して下さった方々、ご家族、学生等、多方面からご参加いただき、合計23名のお客様をお迎えしました。

流通・リスク分析グループが担当した今回の魚研（ギョラボ）×カフェは『マグロ養殖でぼろもうけ！？』というテーマで、近年活発になっているマグロ養殖業を経済的な視点から2題ご報告させていただきました。1題目は「マグロ養殖ってどんなもの？」ということで、どんなマグロがどこでどのように養殖され、どのくらい生産されているのかなど、マグロ養殖の基本的な情報をお話しました。2題目は「マグロ養殖はこれからもうかる？」ということで近年、マグロ資源の減少により国際的な資源管理機関が次々と漁獲規制を決定するなかで、これからマグロ養殖はどうなっていくのか、本当にもうかるのかということをお話いただきました。

今回は本年度最後の魚研（ギョラボ）×カフェということで、奄美大島の事業場で養殖されたクロマグロを用意し、ご来場いただいたお客様に刺身で召し上がっていただきました。初めてご賞味される方も多く、脂の乗った養殖マグロは大変好評でした。テーブル討論・総合討論では、マグロ養殖業の経済性について非常に鋭い意見・質問が寄せられ、マグロ養殖業への関心の高さがうかがえました。

本年度は合計4回の魚研（ギョラボ）×カフェを通じて、ご参加いただいた方々と楽しくサイエンスを語り合い、大変有益な時間を過ごすことができました。ご参加、ご協力いただいた方々に心から感謝申し上げます。



スタッフレポート

<田中照佳 利用・安全グループ 博士後期課程> 道案内・会場係

曇り空でお天気が心配される中、私たちは近畿大学を出発しました。第5回魚研（ギョラボ）×カフェでは道案内を担当しましたが、あしびの郷入り口にてお客様をご案内、お出迎えしていると、心配していた雨が降ってきてしまいました。しかし、第4回と同様に雨模様の中、多くのお客様に参加して頂くことができました。リピーターの方をはじめ、多くの皆様に参加して頂くことができ、私たちが企画した魚研（ギョラボ）×カフェが地域に根付きはじめていることは、私たちにとって励みになるため、非常に嬉しく思いました。

さて、今回は流通・リスク分析グループが担当し、有路昌彦准教授にも発表して頂きました。今回のテーマは「マグロ養殖でぼろもうけ!？」で、私の研究内容とは全くの異分野ということもあり、つつい聞き入ってしまい、私たちスタッフにとっても大変よい勉強になりました。また、今回は実際に私たちが養殖しているクロマグロをお客様に試食して頂き、ご好評頂けたかと思えます。

今年度の魚研（ギョラボ）×カフェは、今回で終了してしまいましたが、また近い将来皆様とお会いできる日を楽しみにしています。



<松本太郎 養殖グループ 博士研究員> 会場係



第5回魚研（ギョラボ）×カフェでは経済グループから『マグロ養殖でぼろもうけ!？』をテーマに話題提供を行い、一般の参加者と語りました。一題目は博士研究員の原田幸子さんから養殖クロマグロ、特に蓄養（天然のクロマグロを漁獲して生簀で肥育する）の世界情勢についてのお話でした。二題目は有路昌彦准教授から主にクロマグロの需要や供給の現状と将来の見通しなどの流通に関するお話でした。クロマグロはマーケットの存在と利潤という「儲かる」条件を満たしており、世界的に需要が伸びる一方で天然魚の漁獲規制が厳しくなりつつある現状では、近大マグロのような天然のクロマグロを使わない完全養殖は今後ますます儲かる可能性があると感じました。発表に対するお客様の反応も上々で、魚研（ギョラボ）×カフェの回を重ねるごとに質問がより具体的に、深くなっていると感じました。また、今回は特別に奄美大島産の近大マグロをお

お客様に食べていただき、こちらのほうも大変好評でした。もちろん企画した我々にとっても好評でした。

今回の魚研（ギョラボ）×カフェも、今年度の締めくくりとしてふさわしいものだったと思います。お客様のレベルアップに負けないよう、私も研鑽したいと思います。

<西田 剛 養殖グループ 博士後期課程> 音響・照明・会場係

私は今年度最後の魚研（ギョラボ）×カフェでファシリテーター等を担当させていただきました。今回の発表は、流通・リスク分析グループの有路先生とPDの原田さんに発表して頂きました。今回のテーマである「マグロ養殖でぼろもうけ!？」は日頃、消費者として購入される側である、参加者の皆様が、非常に多くの質問を有路先生や原田さんへされ、クロマグロの流通・購買等に対し、非常に強い興味を持たれていることを実感しました。



私がファシリテーターを担当した席は、多田先生（水産経済学）、同研究室の学生、近畿大学の広報担当の方と、非常に高い見識を持たれた方が同席されており、わたしもそちらの方々の話を楽しく聞かせていただき、担当テーブル内で非常に活発な意見交換ができたと思います。

次年度以降の予定は未だ決まっていますが、また、このような場を設け皆様とお会いできる日を楽しみにしています。

委員長のまとめレポート

<横井謙一 人工種苗グループ 博士研究員>

魚研（ギョラボ）×カフェは、近畿大学グローバルCOEプログラム「クロマグロ等の養殖科学の国際教育研究拠点」の若手研究者によるオリジナル企画として、これまでに計5回開催されました。本年度は6月、8月、10月、12月の4回行なわれ、延べ83名の方にご来場していただくことができました。6月は養殖グループが「キンダイ的水産養殖革命」と題し、マグロの眼の機能や新しい海水の開発についてご紹介しました。8月は環境グループが担当し、「小さいけど大きな細菌」というテーマで目に見えない細菌の良い働きと悪い働きについて具体的な例を取り上げてお話しました。10月は利用・安全グループが「魚コラーゲンの秘めた力」と題して、最近注目の魚コラーゲンが美容や健康にどのよ



うに有効なのかをクイズを盛り込みながら解説しました。そして今回は、流通・リスク分析グループが担当し、「マグロ養殖でぼろもうけ!？」というタイトルでマグロにまつわるお金の話を紹介しました。本カフェの参加者は小学生からご高齢の方までと幅広く、科学が好きな方、テーマに興味を持って参加して下さった方、そして4回すべてに参加して下さったりピーターの方など様々でした。会場としては、近畿大学農学部のログハウスと奈良町あしびの郷を貸していただきましたが、どちらもゆったりとした雰囲気、本カフェを開催する場所としてぴったりの空間でした。このように魚研（ギョラボ）×カフェは誰でも気軽に参加できるサイエンス企画として、また近畿大学が行なっているマグロ研究の情報発信の場としても十分にその役割を果たしたのではないかと考えています。

今年度は、委員長としてこの魚研（ギョラボ）×カフェに携わってきた私ですが、1番最初のミーティングで感じた不安は大変大きなものでした。ミーティングルームに行ってみると、グローバル COE プログラムの名前の通り若手メンバーの半分は外国人で、彼らの出身国はドイツ、スペイン、バングラデッシュ、マレーシア、韓国とまさに国際的なメンバーが集まっていました。このような状況から、もちろん共通語は英語となってくるわけですが、私のつたない英語力ではミーティングがうまく進まず、何度も気まずい雰囲気になってしまいました。その後は、結局日本語でミーティングを行い、板書とレポートは英語で書くというスタイルになったわけですが、若手メンバーにはいろいろと迷惑をかけてしまったと反省しています。とはいえ、皆さんのおかげで今年度の魚研（ギョラボ）×カフェを4回開催することができ、外国人メンバーも楽しみながらこの企画に参加してもらうことができました。これまで私の考えに付いてきてくれた若手メンバーの皆さんには本当に感謝しています。

今後はどのような形でこの若手企画が展開されていくのかは今のところ分かりませんが、また皆さんと楽しくサイエンスを語ることができると感じています。最後に、魚研（ギョラボ）×カフェに参加して下さったすべての皆さま、会場を快く貸して下さった近畿大学農学部ログハウスおよび奈良町あしびの郷の皆さま、そして近畿大学グローバル COE プログラムおよび魚研（ギョラボ）×カフェに関わったすべてのスタッフの方々に感謝するとともに、このイベントに参加できたことを光栄に思います。

アンケートの結果

- 23名中16名の方がアンケートにご協力くださいました。

参加者について	
年齢	
10代	0
20代	3
30代	2
40代	3
50代	4
60代	3
70代	1

性別	
男性	10
女性	5

科学に親しむ機会	
ある	9
ない	7

科学に対する興味	
ある	12
ない	2

魚研（ギョラボ）×カフェについて	
何で知ったか	
知人紹介	4
HP	5
ポスター	2
Eメール	0
その他	1
はがき	4

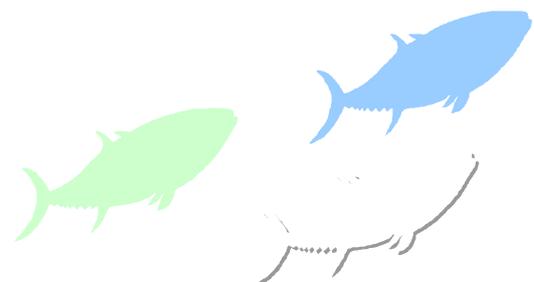
どのような形式を希望するか	
カフェ形式	13
シンポジウム形式	2
特になし	0
その他	1

話題について	
内容（5点満点）	
マグロ養殖ビジネスってどんなもの？	4.4
マグロ養殖はこれからもうかる？	4.4
全体	4.4

発表について	
内容（5点満点）	
マグロ養殖ビジネスってどんなもの？	4.4
マグロ養殖はこれからもうかる？	4.6
全体	4.5

会場の雰囲気	
発言のしやすさ	
しやすかった	10
普通だった	4
しにくかった	0

発言したかどうか	
した	6
したかったができなかった	1
したいと思わなかった	3



印象に残ったこと

マグロ養殖ビジネスってどんなもの？

- ★ すみません。聴かせていただけませんでした。
- ★ 遅れて聞けませんでした。すみません。
- ★ まぐろの色々についてのお話。
- ★ 4回生のように見える。その割には発表がよくまとまっており、よく理解できた。
- ★ すみません。ちょっと遅れてきてしまい、ゆっくりじっくりお話しが聞けなくて残念です。
- ★ 地域によって値段が違うということ。
- ★ マグロの種類、養殖業の広まりがよく分かりました。

マグロ養殖はこれからもうかる？

- ★ 最後の5分しか聞けませんでした。素人にも分かりやすい説明でした。
- ★ 途中から聞かせていただきました。すみません。
- ★ 価格についてのお話。
- ★ 細かいデータを持っている。
- ★ WTPの結果についての発表に興味を持ちました。
- ★ 所得弾力性、価格弾力性。

その他ご意見など

- ★ 是非また参加したい。資料などたくさん頂きありがとうございました。参考になります。
- ★ ライセンス先（国）の選定についてHPの書き込み内容が興味を多少引かれるものでした。
- ★ まぐろの食べ手としていつでもできる限り参加させていただいています。いつもなかなかの奥深いお話し、興味深くきかせていただき、楽しい時間が持てました。
- ★ 秋の富雄での学園祭でクエ鍋を一度企画して下さい（有料で）よいと思います。マグロの色々についての情報が聞くことができ良かったと思います。こんな時がありませんので又お願いします。
- ★ 和気あいあいとゆっくりお話しが聞いて良かったです。学生の皆さんがしっかり研究されていることに感激しました。こちらに来させていただいて、知らないお話しやお隣の方のお話しもとても興味を持ちました。学生さんが隣に来てお話ししてくださったり、クイズ等皆さんをあきさせないいろいろな工夫をされていて、とても有意義な時間を過ごせました。春に又楽しみにしています。
- ★ マグロの養殖ビジネスについてとてもわかりやすく説明されて、良かったです。今後、一般投資家が投資できるような仕組みができれば産業として大きく発展するのではないかと考えます。またそのような機会があれば投資をしたいと思います。大学の研究室というものが普段どういった研究をしているのかが少しわかったような気がします。
- ★ 普段なかなか聞かせていただけない話が聞いて面白かったです。素朴な疑問にもちゃんと答えてくださって、ありがとうございました。資金集めなどで一般の我々にも何か応援できることがあれば是非教えて欲しいと思います。海でのイベントにも参加したいと思います。
- ★ 養殖に対する見方が変わりました。漁業のことを知る良い機会になりました。
- ★ ディスカッション形式を希望。資源や密漁から養殖の必要も分るが、それでもそれで良いのか？
- ★ 話題を3題ぐらいにしてもらえたらと思います。

